

朝日の谷へ滑り込め!

朝日連峰 竜門小屋ベースで巡る源流滑降

(高松沢、ガッコ沢、入りトウヌシ沢、横松沢、赤倉沢)

木下 坂村 長谷川

【日時】 2015年5月2日(土)~5日(火)

【メンバー】L長谷川、木下、坂村

今年のGWはどこに行こう。北ア周辺も候補に挙がっていたが、前週に月山から見た朝日連峰の真っ白な輝きに魅了されてしまった。そして東北の天気予報も好天続きときた。

過去に何度か計画しては天候不順で転進を余儀なくされてきたが、ようやくスキーで踏み入れることができた。さて、どんな斜面が待っているか。

5/2:根子集落から竜門小屋へ(晴れ)

今日は一日かけてのアプローチだ。急ぐ必要は無くノンビリと歩きを楽しむ事にした。日暮沢林道は数年前の豪雨で部分的に崩れているが歩く分には問題ない。

日暮沢小屋まで2時間強の道程だが、周囲の景色は変化に富んでいて飽きさせない。小屋生活でのツマミのタネを途中で収穫する。日暮沢は雪解けで水量が多く飛び石では濡れてしまいそうだったが、倒木の橋がありこれを馬乗りで渡った。登山道をP809までトラージェンし、清太岩山までスキーを使うことができた。再びトラージェンで竜門山の手前まで進みトラバースして竜門小屋へ辿り着く。

2階の一角に荷を降ろして宴会開始、今日は夕方でも気温は暖かく快適な入山初日となった。(長谷川:記)



5/3:高松沢・ガッコ沢・入りトウヌシ沢(晴れ)

小屋はありがたい、ゆっくりと手足を伸ばして昨日の疲労も回復。今日も快晴、申し分のない天気だ。

小屋番の遠藤さんによると20年ぶりの寡雪とのこと、小屋前の水場がこの時期出ていることはないようだ。麓は多く、山中は少ないパターンようだ。稜線に雪がないので狐穴までスキーは使えない。予定の以東岳の滑降は次回に延期して、竜門小屋ベースに各源流を探ることにする。初見の朝日連峰スキー、どんな景観が広がるのだろうか。

稜線をトラレーゲンで北寒江山まで、スキーはちょっと重たいがアップダウンの少ない快適な稜線歩きだ。北寒江山から少し笹藪を漕いで高松沢源頭に出る。20度程のバーンが続いていた。どこまでも行けそうな誘惑を我慢して標高1300mまで滑降、快適な斜面でした。誰もいない静寂、不思議に感じる。

三方境とのコルにシールで登り返す。再び北寒江山を經由して三方池に出て、ガッコ沢右俣滑降。風が強いところなのだろう、大きな風紋が印象的。抉れた雪面を避けて



<快適斜面@高松沢源頭>

右手の尾根状から谷に向かって滑った。谷底は雪が融けていてやや滑りにくい。標高1350mまで滑降、ここから谷は急激に落ち込んでいてガッコ沢大ゴルジュ帯、側壁が荒々しい。

再び稜線へ登り返し、ここは傾斜がきつくジグを繰り返す。寒江山の肩へ出て東面を覗き込む。トウヌシ沢左俣は快適な雪渓がずーと続いており、多分入りトウヌシ沢の出合まで



<2本目@ガッコ沢>

滑降可能であろう。ここを標高1350mまで滑り、P1588に向けてトラバース気味に登り返す。

稜線は雪庇の尾根、シュルンドを避けて今度は入りトウヌシ沢右俣の斜面に飛び込む、緩急の付いた斜面を標高1250mまで滑降、ここも素晴らしい斜面であった。竜門小屋に直接出る細い沢に登り返す。びしょびしょになったシールが剥がれてきた。僕と純平さんは最後にはスキーを担いで登り、竜門小屋に帰着。



<広大斜面@トウヌシ沢>

各沢の偵察的な滑降になったがどこも素晴らしい斜面が広がっていた。そして誰もいない「貸切バーン」、朝日連峰の滑降フィールドの可能性を感じた1日になりました。今日も9時間

近くの行動、「よく遊んだ〜!」(木下:記)

5/4:横松沢・赤倉沢(晴れのち雨)

今日もよく晴れている。予報では夜から雨となり、一晩で通り過ぎるとのことだった。なので一日遊べると思っていたが、木下さんがもっと早く崩れると思った方がいいと言った。「本当かな?」と思ったが、経験豊富な先輩山屋の“読み”を信じて西朝日岳から沢の源頭を滑って繋いで帰っ

てくる半日コースとすることになった。

6時50分、竜門小屋を出発して尾根通しに西朝日岳に向かう。幸い雪はずっと繋がっていた。クラックがズタズタに入っている箇所はいくつかあったが特に問題なく通過できた。竜門山から西朝日岳までは1時間程度だ。西朝日岳山頂からの展望は素晴らしい。しかし風が強かったので記念写真を撮ったら少しでも風が避けられそうな場所に移動して滑走準備を行った。



昨日竜門小屋でご一緒の方が西朝日岳からの東斜面は滑ると楽しそうだと教えてくれた。なるほど、この広大な斜面は縦溝が少なく、雪の状態がいいようだ。歓声とともに横松沢左俣に向けてドロップし、いつものように写真や動画を撮り合いながら高度を下げる。標高が下がってゆくとつれ、手強い縦溝が刻まれる斜面となったので、250m滑ったら尾根上に移動して更に滑る。



そろそろこの辺までにするかという話が出たのは標高1430m付近だった。滑走標高差380m。この2日間で最も長い距離を滑ったことになる。

シールを貼って稜線に戻るとさっそく滑走準備にとりかかる。横松沢右俣も美味しそうな斜面が広がっているからだ。11時15分、2度目のドロップ。今回は小屋に戻りながらの滑降だったので、沢に吸い込まれてゆくというよりは、美味しいところはいただく

が横移動もしながらの滑りとした。尾根上は雪の切れているところがところどころある。どこをどう滑れば雪をうまく繋げられるか、長谷川リーダーの観察眼が冴え、沢筋から尾根を上手に乗っ越すことができた。滑走標高差240m。シールを貼って竜門山とP1725とのコルに登り返す。

今日はこれでおしまい。稜線を竜門山に向けて緩く登って行く。すると赤倉沢の綺麗な斜面が目に入った。曇ってきたが、天気はまだもちそうだ。リーダーと私はまだ滑りたくて仕方がないのだが、木下さんはあまり気が進まない。実は先ほどの登りでビンディングが壊れていた。変な方向に力をかけなければ登りも滑りも大丈夫なようだったが、明日のこともあるのでセーブしておきたい。当然の思いだ。だが、無言でじっと赤倉沢を見つめる二人の姿に木下さんの自制心は消え去った。12時30分、3度目のドロップ。ここでの滑走標高差210m。

本日の滑走標高差トータル830m。半日としてはよく滑った方か。竜門山に登り返したら雨が降ってきた。先輩山屋の経験に裏付けられた天気予報は見事に当たった。(坂村:記)

5/5:下山日(晴れ)

夜のうちに雨雲は完全に通過し雨は止んでいたが、気温が冷え込んでいて連休一番の寒さだ。雪が固く竜門山からはアイゼンで下りる。清太岩山からはスキーで楽々下山かと思いきやブナの芽の殻についている油分でスキーの滑りが悪い。ただ一斉に芽吹いたブナの新緑がとても綺麗だった。

林道の雪も3日前より目に見えて雪解けしている。道中で山の恵みを採りながら下山した。

下山後は温泉→月山蕎麦→山菜天ぷら宴会と盛り上がり、GWを遊び尽くして翌朝一番で帰京した。(長谷川:記)

【行程】

5/2:根子集落(8:00)～日暮沢(10:20/10:50)～清太岩山(14:45)～竜門小屋(16:30)

5/3:BC(7:40)～北寒江山(9:15)～高松沢1300m(9:50)～三方池(11:30)～ガッコ沢
1350m(12:00)～主稜線(12:50)～入りトウヌシ沢1250m(14:50)～BC(16:00)

5/4:BC(6:50)～西朝日岳(8:00)～横松沢左俣1430m(9:00)～主稜線(10:30/11:15)
～横松沢右俣1550m(11:40)～竜門山(12:15)～赤倉沢1460m(13:00)～

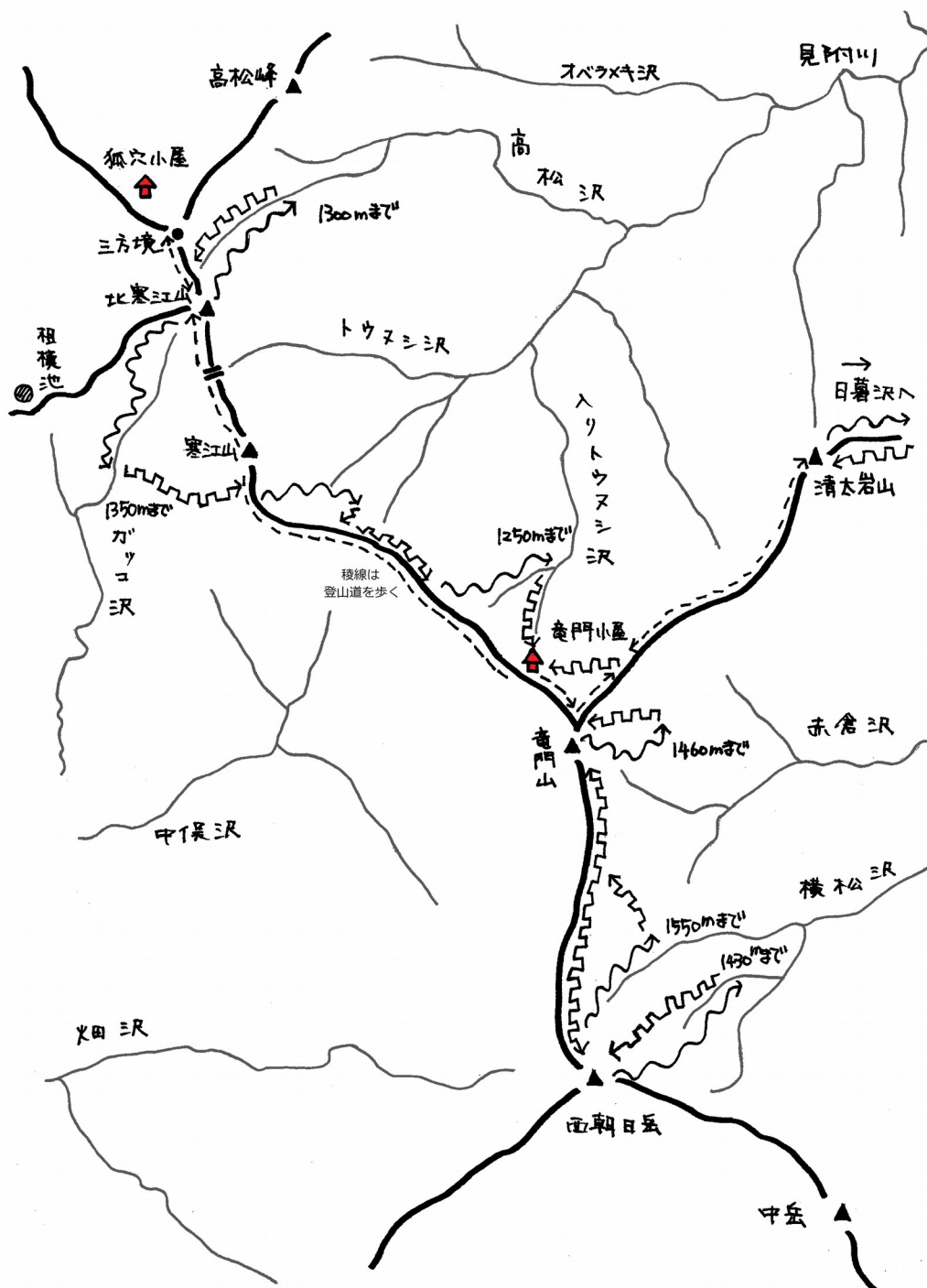
BC(14:00)

5/5: BC(6:30)～清太岩山(8:00)～日暮沢(10:00)～根子集落(12:40)

【地図】大井沢、朝日岳、相模山



<一斉に芽吹いたブナの新緑>



朝日連峰／竜門小屋ベース 周辺源流滑降概念図

日時: 2015/5/2～5

メンバー: 木下久義、坂村佳代子、長谷川純(記)